

「いちご市」かざらないぬくもりのまち

かぬま 鹿沼市長(栃木県) **佐藤 信**
Shin Sato



ふらりと帰れる田舎から

鹿沼市は、今年、市制70周年を迎えました。私自身、ふるさと鹿沼の歴史とともに歩んできました。

わが鹿沼市は、東京から北に100km、栃木県中央地域の一角を占める農林商工のパランスのとれた産業都市です。人口9万7000人で、面積490km²のうち7割を森林が占めています。豊かな山林と美しい清流が育んだ木材は非常に品質が優れており、東京オリンピック・パラリンピック開催のメイン会場である新国立競技場や選手村等の建設資材として採用されているところでもあります。我が家も鹿沼産材を使用していますが、やはり木の家は落ち着き、最高だと思えます。

林業や製材加工業、建具といった高度な木工技術を受け継いできた「木のまち鹿沼」の自慢の一つは、ユネスコ無形文化遺産に登録された「鹿沼秋まつり」です。日光東照宮造修営に携わった彫師たちが制作したといわれる27台もの絢爛豪華な彫刻屋台が街の中を練り歩く様子は、動く陽明門とも形容され、このお祭りには2日間で30万人の観光客が訪れます。

実は私はこの「鹿沼秋まつり」を盛り上げようと趣味のカラオケが高じてCDを出してしまいました。通信カラオケにも「鹿沼ぶっつけ秋まつり」というタイトルで入っ



鹿沼市出身の卓球銀メダリスト平野早矢香さんも参加した「さつきマラソン大会」

ていますので、よろしかったら一度リクエストいただきたいと思います。今年の「鹿沼秋まつり」は70周年の記念の年にふさわしく、盛大に開催します。

本市は豊かな自然とふるさとの原風景を残しつつ利便性や雇用環境の良さも兼ね備えた、まさに住み続けたいまちです。私のもう一つの趣味であるジョギングをしていると、市内の風景・空気・人を含めて「やっぱりいいまちだな」と改めて実感します。毎年5月に開催する「さつきマラソン大会」

「いちご市」宣言しちゃった

には、私も欠かさず出場しており、日本全国から1万人以上の方にお越しいただく県内最大級のランニングイベントで、大変好評です。特に首都圏の皆さんは、是非「週末にふらりと帰れる田舎まち」感覚でおいで下さることをお待ちしております。

本市には本当にたくさんの特産品があります。澄んだ空気と水が育んだ「そば」は特に有名で、テレビ番組でもよく取り上げられています。その「そば」の上に茹でたニラを豪快にのせた「ならそば」は鹿沼名物となり、市外・県外からもお客様が絶えません。ほかにも、いちご、トマト、こんにゃく、はとむぎ、鹿沼牛など特産品が豊富です。

また、本市のいちごは品質が高く東京大田市場でその日の建値たてねになっていることから、集中的なシティブロモーションを展開することを決断し、本市は平成28年に「いちご市」を宣言いたしました。

いちごは嫌いという人は聞いたことがありませんし、食べると思わずニッコリとしてしまう誰からも好まれる果実です。昨年11月には訪日した米国イバンカ大統領補佐官に本市のいちごが提供され、絶賛していただき、その後来日した大統領一行にも贈呈されました。鹿沼のいちごは日本一、まさに世界トップレベルの品質だと自負しています。我々は県外で本市の位置を説明す



特産のいちごでイメージアップを図ろうと「いちご市」宣言

る際、「日光の手前」とか「宇都宮のとなり」というフレーズを使っていました。これから鹿沼で育っていく子供たちにはぜひ「私はいちご市の出身」と自信を持って言えるよう、まちのイメージを定着させていきます。

今年2月に開催した初めてのいちごイベント「いちごのもり」には、7000人もの方にお越しいただきました。やはり皆さんいちごが好きなのだと改めて感心させられました。私も鉢植えのいちごを育てていま

すが、なかなか難しく、農家さんの苦勞を実感しております。

平たんではなかった道のり

私は鹿沼市で生まれ育ち、県外へ進学し、民間企業での経験もあります。その後、さまざまな想いの中、市役所へ入庁し、県議会議員を経て現在3期目の市長職に就いています。そのような経験の中で、外から見た鹿沼市、県内でのポジション、民間、市民、議員などさまざまな目線から行政運営とはどうあるべきか、客観的に分析するよう心掛けています。特にここ10年は、インターネットや携帯電話の普及、グローバル化など世の中が目まぐるしく変化しています。AIやロボット、再生医療などの技術革新が加速し、市政運営もそういった影響を多分に受けていくのではないかと予想しています。これからの時代を見通すのは難しいことですが、何をすべきかは過去の歴史から学ぶことができます。私が最も重視しているのは「健全財政」です。未来のある若者に負担を押し付けることは絶対にはやってはいけないということを信条にしています。初当選時、市街地の大型商業施設跡地に公共施設を作ることが既に決定されていましたが、継続的な誘客による採算性をどう確保していくか、大きな課題でした。そこで、規模を縮小して、直売所機能に特化することを決断し、コンパ

クトながら観光客だけでなく市民の皆さまの買い物にも使い勝手の良い施設として整備しました。

そのようにして建設した「まちの駅」新・鹿沼宿」は、今では全国からの視察も相次ぎ、本市の注目施設の一つとなっています。

私の座右の銘は「質実剛健」です。飾らずに、しかし強くたくましく。そんな市政運営をこれからも進めていきたいと思っています。



市民とのふれあいを何よりも大切にしている筆者